



2026 年 8 月 20 日

各 位

会社名 株式会社 Sharing Innovations
代表者名 代表取締役社長 堤 貴寛
(コード番号：4178 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 西田 祐
(電話番号 03-6456-2451)

2026 年 12 月期 第 2 四半期決算説明動画と書き起こし公開のお知らせ

当社は、2026 年 12 月期第 2 四半期決算説明動画および書き起こしを、公開いたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 2026 年 12 月期 第 2 四半期決算説明動画

URL : <https://irp-system.net/presenter/?conts=01kwxmjr5.jc07dfwmw2m8gqsh8>

2. 2026 年 12 月期 第 2 四半期決算説明動画の書き起こし

2026 年 12 月期 第 2 四半期の決算説明動画の書き起こしについては、次頁以降をご参照ください。

以上

株式会社 Sharing Innovations

2026 年 12 月期第 2 四半期 決算説明会動画書き起こし

動画 URL : <https://irp-system.net/presenter/?conts=01kwxmjr5jc07dfwmw2m8gqsh8>



ご視聴いただき誠にありがとうございます。

株式会社 Sharing Innovations、代表取締役社長の堤でございます。

今回、2026 年 12 月期第 2 四半期の決算について、報告させていただきます。

計画通りに進捗

- 2026年は「リカバリ期」と位置づけ、ビジネスモデル、収益性、事業ポートフォリオの面で改善を図る計画
- 2026年上期は、利益面で2025年下期を超える水準を確保し、前年比で大幅な増益となる
- 営業利益の通期業績予想に対する上期の進捗率は69%と、計画を前倒して進捗

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

2

まず2026年12月期第2四半期の決算サマリとなりますが、基調は第1四半期と大きく変わりません。

売上面については、SESの事業領域にて、2025年下期からのレガシー領域での内製化や中東での地政学リスクの影響を受け、前年比で減収となっておりますが、利益面では、採用や人事制度の整備といった人材に関する投資を行いつつ、2026年上期には、2025年下期を超える利益水準を確保し、前年比で大幅な増益となりました。

2026年は、「リカバリ期」と位置づけ、ビジネスモデル、収益性、事業ポートフォリオの面で改善を図る計画としており、四半期の利益のバランスはほぼ均等となりますが、営業利益の計画に対する上期の進捗率は69%と、計画を前倒して進捗しております。

アジェンダ

- 1) 2026年12月期 第2四半期 概況
- 2) 2026年12月期の見通し
- 3) 会社/事業概要
- 4) 当社事業が属する市場の概況
- 5) 当社の特色

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

3

本日のアジェンダについては、こちらに記載のとおりとなります。2026 年 12 月期第 2 四半期のポイントについては、冒頭で説明した通りですが、この後詳細について説明いたします。

なお、3)会社/事業概要以降につきましては、今回説明を割愛させていただきます。

2026年12月期 第2四半期 業績（全社） 前年比

2025年下期からのSES領域における外部環境の変化を受け、売上は減収となるが、利益面では2025年下期を超える水準を確保し、前年比で大幅な増益となる

(単位:百万円)	(前年同期) FY2025-2Q	FY2026-2Q	増減率
売上高	2,312	1,949	▲16%
売上総利益	429	492	+15%
販売管理費	402	409	+2%
営業利益	26	82	+207%
経常利益	15	83	+445%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲5	41	-

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

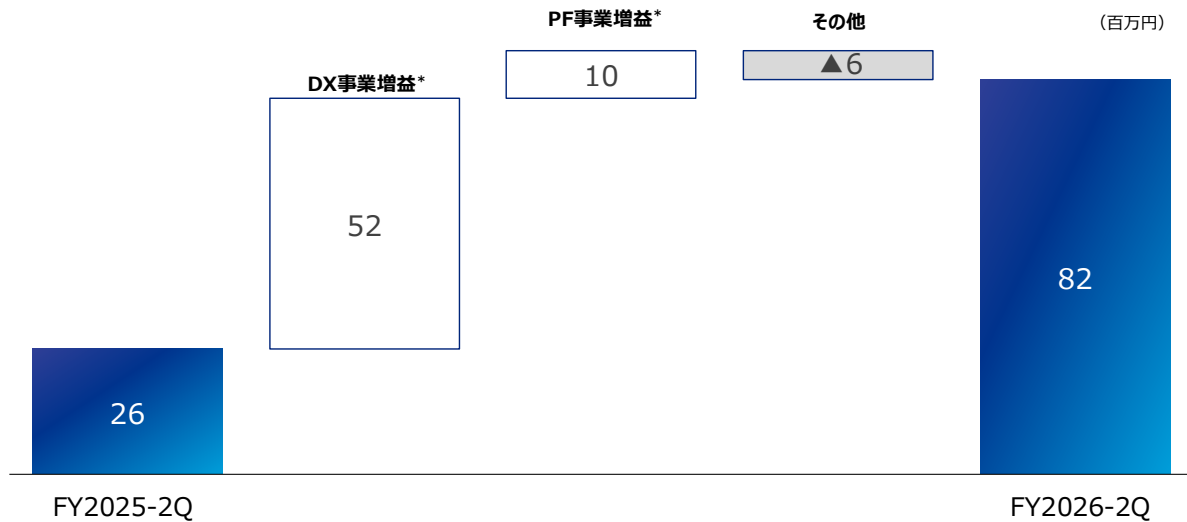
4

2026 年 12 月期第 2 四半期の決算につきましては、
売上高 19 億 4,900 万円、営業利益 8,200 万円という着地になりました。

前年との比較では、減収増益となっております。

冒頭の通り、減収については、SES 領域での外部環境の変化によるものですが、利益面では大幅な増益となっております。

2025年下期を超える水準を確保し、DX事業が前年比で大幅な増益となり、全社でも増益となる



*:各セグメントの売上総利益増減額

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

5

続いて、営業利益の前年比に焦点を当て、2025年第2四半期から2026年第2四半期にかけての営業利益の増減をウォーターフォール形式で表したグラフがこちらになります。

本業のデジタルトランスフォーメーション事業が増益となっておりますが、Salesforce 領域での順調な受注活動が、この増益を牽引しており、またデリバリ面でもエンジニアがフル稼働に近く、収益性の改善に貢献しております。

プラットフォーム事業につきましては、鑑定士の先生の稼働時間を伸ばし、既存ユーザーの利用拡大につながるような施策を実施する一方で、新規ユーザーの獲得の面では、費用対効果の高い広告運用を実現できており、前年からの増益につながっております。

2026年12月期 第2四半期 業績（事業別）前年比

	(単位:百万円)	(前年同期) FY2025-2Q	FY2026-2Q	増減率
DX事業	売上高	2,129	1,754	▲18% ※
	セグメント利益	162	216	+33%
PF事業	売上高	198	209	+6%
	セグメント利益	25	34	+33%

※ SES領域の外部環境の変化による。SES業界では内製化が進展し、専門性の高い市場ヘンズがシフト。レガシー、ロースキル領域は市場ニーズが減少。

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

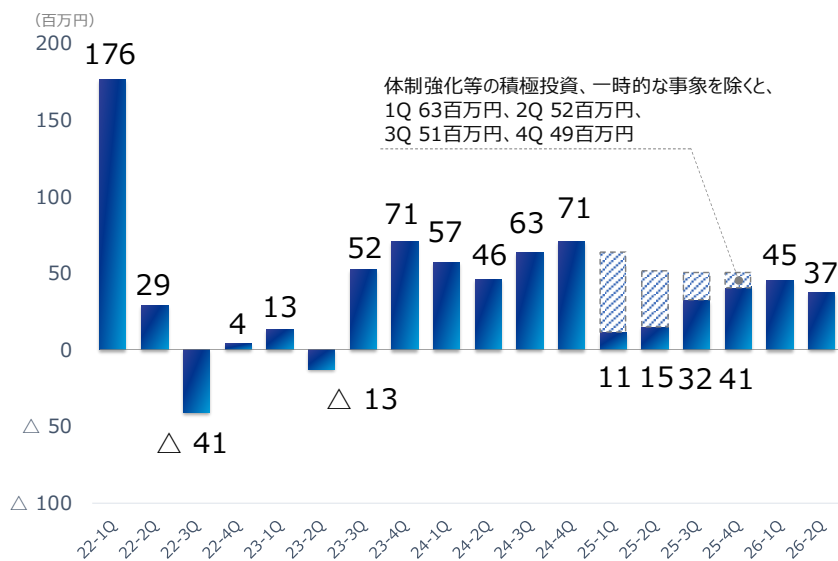
6

事業別の状況は、こちらの通りとなります。

各事業の状況については、先ほどの説明の通りとなります。

四半期別 営業損益推移

2026年上期は、
2025年下期を
超える利益水準を確保



四半期ごとの営業損益の推移では、2026 年上期が 8,200 万円となり、2025 年下期の 7,300 万円を超える利益水準となっております。

FY2025から大きな変動はなく、財務面は引き続き盤石

(単位:百万円)	(前年同期) FY2025	FY2026-2Q	増減額
資産合計	2,330	2,349	+19
流動資産	1,778	1,854	+79
固定資産	551	490	▲60
負債合計	720	697	▲22
流動負債	517	523	+5
固定負債	202	174	▲27
純資産合計	1,609	1,651	+41
負債・純資産合計	2,330	2,349	+19

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

8

貸借対照表については、こちらの通りとなります。過去の M&A ののれんの償却、借入金の返済以外は、前期末から大きな変動がありません。

アジェンダ

- 1) 2026年12月期 第2四半期 概況
- 2) 2026年12月期の見通し
- 3) 会社/事業概要
- 4) 当社事業が属する市場の概況
- 5) 当社の特色

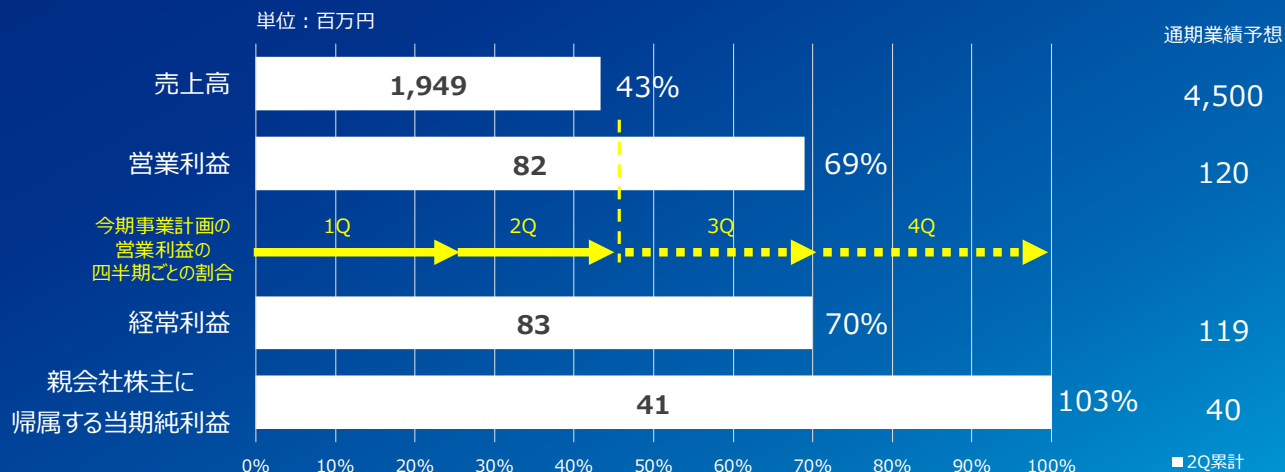
ここからは下期の見通しについて説明いたします。

2026年12月期 事業進捗

営業利益は、計画を上回るペースで進捗している

下期にかけて採用などの投資を実行する想定のため、業績予想は据え置き

< 通期業績予想に対する2Q進捗率 >



©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

10

上期時点の進捗につきましては、これまでの説明の通り、計画を前倒しで進捗しております。

営業利益の計画に対する上期の進捗率は69%と、ほぼ事業計画の3Q時点まで到達しておりますが、年間の着地の利益水準を見つつ、下期にかけて採用などの投資も実行していきたいと考えております。

トピックス：AIの活用

本取り組みはAI駆動型へ業務プロセスを作り変え、開発領域だけではなく、営業・マーケティング・企画を含むあらゆる職種の業務を構造化し、AI前提で再設計する全社的な変革を開始

©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.



Sharing Innovations、全社業務をAI駆動型へ変革

～ 生成AIを前提とした業務再設計を本格展開 ～

企業の経営基盤を支えるDXパートナーである株式会社Sharing Innovations（本社：東京都渋谷区、代表取締役：堤 貴寛、以下シェアリングイノベーションズ、親会社：株式会社Orchestra Holdings）は、生成AIを前提とした業務プロセスの全社的な再設計を本格的に開始いたします。

背景と当社のアプローチ

生成AIの急速な進化により、IT業界を中心にAIが開発プロセスの中核に組み込まれる動きが加速しています。この動きはエンジニア領域の枠にとどまらず、調査・企画・資料作成といったナレッジワーク全般においても、AIの適用範囲が急速に拡大しています。

当社はこうした動向を踏まえ、昨年度より先行して生成AIの業務適用に向けた取り組みを開始し、実プロジェクトでの実務検証を通じて実効性の検証を重ねてまいりました。

一連の検証を経て、単なるツール活用にとどまらず、生成AIの活用を前提とした業務・開発の仕組みそのものを再設計するフェーズに移行できると判断し、本取り組みの本格展開を決定いたしました。

11

続いて、今回は、弊社の AI の取り組みについて紹介させていただきます。



- 当社は、本取り組みの全体像を「AI駆動業務」変革と位置付け、開発領域に限定した取り組みではなく、営業・マーケティング・企画を含むあらゆる職種の業務をAI前提で構造化し再設計する全社的な変革を推進中
- 一方、事業としてもクライアントにAI、データ利活用についてのソリューションの提供が開始されており、高い成長率を継続中

AI駆動業務 —— 全職種の業務をAI前提で構造化し再設計	
対象	主なAI活用領域
エンジニア（AI駆動開発）	設計・実装・テスト・レビュー工程をAI前提で再設計
営業	提案書作成、顧客分析、商談設計 等
マーケティング・企画	市場調査、施策立案、コンテンツ作成 等
コーポレート	データ分析、レポート作成、業務設計 等
※ 上記は主要領域の例示であり、今後あらゆる職種の業務に順次拡大してまいります。	

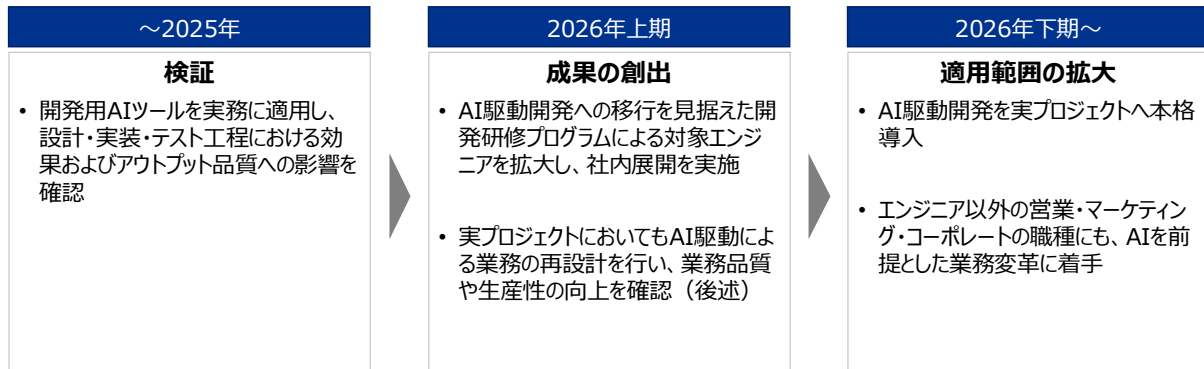
Copyright © Sharing Innovations Inc. All Rights Reserved.

12

弊社では、AI について大きく 2 つの取り組みを行っております。

1 つ目は、2026 年 5 月 15 日のリリースの通り、社内向けに AI 駆動業務への業務変革を行っております。その対象はエンジニアが行う開発業務に留まらず、営業・マーケティング・企画を含むあらゆる職種の業務に対して、AI 前提で構造化し再設計する全社的な変革を推進中です。

2 つ目は、事業として AI やデータ利活用について、導入の目的やゴールを含め、お客様のニーズをヒアリングしたうえで、AI を活用することの可能性を一緒に探ると共に、選定・導入・運用までをトータルサポートしております。



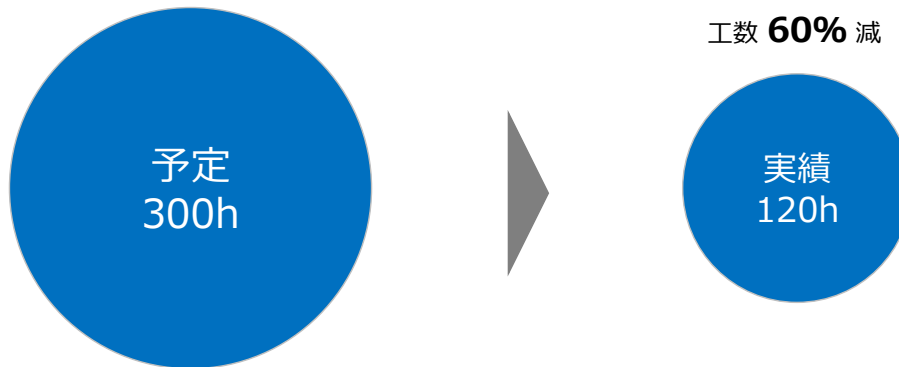
Copyright © Sharing Innovations Inc. All Rights Reserved.

13

先ほどのスライドの1つ目のAI駆動業務で掲げているスケジュールはこちらの通りとなります。2025年から開発業務において、AIツールを実務に適用し、検証を進めてきており、現在はその横展開を図っております。下期以降にかけて、開発業務以外へ展開するスケジュール感です。



- 実際のクラウドインテグレーション案件の際に、量・質の両面で生産性の向上を実現
- 従来であれば300hかかっていた工数を60%削減し、120hに抑制
- 設計ルールを整備することでコーディングの品質が安定、また仕様書等のドキュメント類の更新漏れの防止も実現



Copyright © Sharing Innovations Inc. All Rights Reserved.

14

実プロジェクトでの AI の活用の成果の一例を紹介させていただくと、量の面では、従来 300 時間かかっていた工数が 120 時間に削減する等、生産性の改善に加えて、質の面においてより付加価値の高い成果物や設計ルール、ドキュメントの整備で品質向上につながっております。

以上、弊社の AI の取り組みについて説明いたしました。



©Sharing Innovations Inc. All rights reserved.

54

今回は、2026 年 12 月期第 2 四半期の決算の状況、2026 年 12 月期の見通し、AI の活用状況について、説明させていただきました。

2026 年の事業計画の達成に向け、全力で取り組んでまいりますので、株主、投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援いただけますと幸いです。

ありがとうございました。

以上